

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400489		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 柳瀬		
所在地	高知県吾川郡いの町柳瀬本村892番地		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道194号線に位置し周囲には土佐電バス停留所、郵便局、川の駅あいの里、美容院・理髪店がある。開設から16年余り、すっかり地域の住民となり、穏やかな日々を送っています。眼下には仁淀ブルー、沿道の桜並木、秋には山々の紅葉など自然にめぐまれ季節の移り変わりを肌で感じられます。まだまだ新型コロナウイルス感染症の流行を見極めながらであるが外出の機会作りを行っています。共同生活においても家庭的な環境のもとで、母体法人病院との医療連携を図り、健康管理の充実、利用者一人ひとりの状態に合わせた残存機能の維持・向上、職員は内外の研修会に可能な限り参加して介護技術の向上に努めるとともに、チームワークを大切に、明るい職場作りに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3972400489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な施設をという気持ちを代々受け続けて日々利用者に向き合っている。地域とのつながりが深く、人口減少しているなか、今住んで、暮らしている人を大事にしたいという気持ちが強く、利用者の笑顔が見れるように推進委員会において、情報をより密に交換している。特に、地域に根づいてきた病院を中心に、グループホームという地域密着の面からバックアップするように、身近に家族に溶け込んで支援していこうとしている施設であるが、最近では、地域的に人口減少が起こっている中、地域では学校も併合されてきた。その中であっても地域の役割を果たすべき医療連携を責任を以って進め、地域の一人ひとりと密着を目指し、MUSTの気持ちでかかわりを深めている。病院とグループホームの連携さらに、身近に何でも語れる職員間のこだわりを深めて医療・福祉を改善しようと実践している。地域ともつながりが必要だと認識し、充実出来る体制を鑑みながら、コロナ禍以前の取り組み以上に役立てようと気配りしている。市町村、消防、警察と一緒に、地域の情報を開示しながら、新たな気持ちから企画提案し、素晴らしい地域を描きながら、素晴らしい住みやすい地域を目指している施設で、職員が将来像を可視化していこうと邁進していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より基本理念を玄関及びホーム内に提示し、職員全体でケアに対する考えを確認し、日々のケアに活かせるよう取り組んでいます。	理念は玄関、ホームに掲示してある。週1回の朝礼の際に、唱和して意識づけをしている。新人職員には管理者からオリエンテーションの際に、説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行により地域との繋がりが少なくなっていたが、感染状況を見極めながらであるが事業所の行事への参加や地域の防災訓練への参加などを通じ、いつでも気軽に声を掛け合い、地域住民には地域の拠点となれるよう努めています。	地域の防災訓練に、職員が参加している。地域の方から山菜や、柿などの旬のものを頂くことが多い。コロナ収束に向けて、地域の行事への参加、日本舞踊などのボランティアの受け入れを少しずつすることに着手中である。以前は小学生の慰問があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には職員から先に挨拶をすることにより、利用者とも自然な状態で会話が生まれるよう緊張をほぐしている。地域住民から相談があれば助言し、支援に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事などの活動や入退去、ヒヤリハット状況などを報告し、意見や助言等を受け、サービスの質の向上に活かしている。感染流行期には報告書を郵送し、アンケートに答えてもらう形で意見交換を行っています。	今年4月からは対面で行っている。地域住民、地区長(民生委員)、保健福祉課、事務長、管理者が参加している。利用者の状況、活動報告。コロナ感染防止についてなど、地域の活性化なども話し合った。	意見の聴取方法を、さらに検討してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に2回、地域の包括支援センターが主催するグループホーム連絡会に参加し、情報交換や事例検討会を行い、日頃から相談できる協力関係の構築に努めています。	窓口は、事務長がしている。直接行って話し合うことが多く、密に話し合える関係ができています。最近では、今後の施設の方針などについて話した。研修の案内などはメールで来ることが多い。苦情対策、在宅医療介護などの研修案内があり、管理者が参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県や町が主催する研修への参加や、母体法人の身体拘束廃止委員会に参加し、事業所内研修を開催して、意見交換、意識の共有化を行い拘束しない介護に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会は、母体の病院と合同で年4回行っている。町内施設の事例報告やSNSからの資料を使って、ネットで管理者が受けている。職員へは管理者から時間を見計らって、それぞれ伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の身体拘束委員会の実施や県が主催する研修会への参加や施設内研修を実施し、普段から虐待について考え、ストレスをため込まないよう職員同士でのコミュニケーションを図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見人制度を活用している利用者もあり、制度について外部研修への参加や勉強会を行い、理解、知識の向上、必要に応じて関係機関との調整に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や御家族に入居の前に重要事項説明や契約書の説明を十分に行い、施設内の見学も行えるようにしている。契約内容を理解・納得を得たうえで契約を行うよう努めています。また加算算定や改定等についても説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族来訪時には計画作成担当者・管理者が出来るだけコミュニケーションを図りご意見をいただくようにしています。御家族が県外に住まわれていたり近親ではない方も多くいられるため電話や御手紙にて近況の報告をしています。	面会の際や、電話で意見を聞くようにしている。遠方の家族には電話や手紙で利用者の様子を伝えている。面会に関して家族から要望が多く、理事長と相談してなるべく直接会えるように対応している。利用者の帰宅願望が強い方に対して、自宅付近にドライブに行こうと家族と相談したり、男性職員にしか言えない男性の利用者には、男性管理者が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や日常における職員の声や思いを聞き取る事を含め、意見交換の場を設け、情報の共有を図り、できることから運営に反映しています。	日常の中で、管理者は職員の意見をなるべく聞くように気を付けている。職員の平均年齢が高く、管理者は職員の体調にも注意しながら声を掛けている。食事を外部委託にして職員の負担を減らしたり、全室電動ベッドにしたりするなど、職員からの意見を可能な限り対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の支援、職員それぞれに得意分野を活かして、自信を持って能力が発揮でき、明るく働ける環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修に可能な限り参加できるよう配慮し、介護福祉士資格取得のため初任者、実践者研修など積極的に支援しています。ホーム内でも定期的に研修を行い向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催のグループホーム連絡会への参加や市町村事業所との交流を通じ、勉強会や事例発表を行い、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの向上に繋げています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集、入居前に傾聴を心掛け、不安や要望を気軽に相談できるよう信頼関係の構築に努めています。また本人の要望をお聞きし、プラン作成に反映しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば入所前に訪問したり、入居時にゆっくりとお話を伺う機会を設け、御家族の状況、御意向をお聞きするとともに、面会時等日頃から気軽に相談できる環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や御家族の状況や要望をお聞きするとともに、医療機関等の医療機関からより多くの情報を収集し、情報を基にその時に必要なサービスをカンファレンス時等に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入所者と日常的に接する事で昔ながらの生活習慣、作法、料理等のアドバイスをもらうなど、支えあえる関係を築いている。また本人の意見や意向を尊重しながら支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話連絡時に本人の日頃の様子や状態を報告し、安心してもらえるよう心掛けている。母体病院以外の病院への通院支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよるが面会可能な状態であれば、親族や知人等の訪問時には面会支援を行っている。また行事でお花見など地域のなじみのある場所を訪問している。	面会は少人数、短時間で感染対策をした上で、対面で行っている。親戚がおやつを差し入れてくれたり、海外から年に2、3回、面会に来られたりする家族もいる。近所の知り合いが面会に来ることもある。桜やアジサイの花見をしたり、孫の成人式の際に写真撮影のため外出したりした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や利用者同士の関係性を把握し、気の合う方が一緒に過ごせるよう座席配置を工夫したり、職員も一緒に会話を持つ事で関係性作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には利用者・家族と相談を行い、納得してもらえるよう説明をするとともに、契約終了後も状態確認や相談を受ける等、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、コミュニケーションをとり本人が発する言葉や行動を把握し思いや、意向をくみ取っている。また、御家族から生活歴など情報を得て本人本位に検討している。	男性職員にしか言えない利用者には男性管理者が対応し、発語が困難な利用者は、身近にいる職員が、日常のしぐさや様子などからくみ取るようにしている。慣れ親しんでいる職員には、利用者から相談してくることもあり、職員が寄り添った対応をしている。家族からも、入居時だけでなく、何かあった時にも情報を頂き、ケアに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、御家族より生活歴の聞き取りをしている。入所前に利用していた居宅支援事業所や施設等とも連携をとり情報収集をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の価値観や生活スタイルを継続できるよう、日々の行動、様子を観察し、アセスメント、情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で全体でのサービス担当者会議は行えていないが、ケアプラン作成時には本人、御家族には面会時や電話で、職員からは朝のミーティングや日々の会話から意見や要望を聞き、支援内容を反映している。	介護計画は入居後、2週間、3か月ごとに、何かあった場合にはその都度、見直しをしている。管理者が計画作成し、職員、医者、家族からの意見を参考にして利用者のよりよい生活に繋がるように配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルに日々の様子や介護計画実践記録を記載し、本人の変化や状態が把握しやすいようにしている。連絡ノート、スタッフの会話等で情報を得てケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や受診の付き添いなど御家族の支援が困難な場合は支援している。利用者のニーズに対しては職員だけではなく、主治医や御家族等にも相談し、必要なサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の部落長、民生委員、ボランティアの方等との交流を通じ、地域資源を活用し、その人らしく生活出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と御家族の希望を聞き、母体病院である医師がかかりつけ医となっており、訪問診療、母体病院での診察の受診介助を行っている。必要に応じて専門医への受診支援も行っている。	病院が母体なので医療体制は整っている。訪問診療は月4回あり、相談もしやすく安心できる。他科は家族に基本的には付き添いをお願いしている。歯科は必要に応じて、診療に来てくれる。何でも言える関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルや症状の訴えや食事・水分摂取量、排泄状況の把握に努め、訪問看護師とは情報を連携し、些細なことでも助言指導を受け協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い情報提供を行い、入院後は医療機関を訪問し、利用者の状態把握に努め早期退院に向けて今後の治療経過について連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針についての説明し、重度化が進んだ時には、主治医、御家族と協議し、可能な限り意向を尊重して支援している。	看取りはしているが、病院が母体なのでそちらに移って頂くことが多い。入居時に重要事項説明書で家族に説明確認はしていて、ターミナルに近づくとも再度説明している。重度化した場合には、医師の意見も交えて、再度、確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応マニュアルを作成しており、それにそってホーム内で勉強会を行ったり、AEDの使用方法を確認し、緊急時に使用できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と一緒に災害時のマニュアルを作成し、双方で協力できるよう話をしている。年2回の防火・防災訓練を行ない緊急時に対応出来るよう訓練している。	地域の防災訓練に職員が参加した。昼夜想定で防火訓練を行い、土砂崩れに関しても避難訓練をしている。消防署の参加もあり、水消火器の訓練を行った。利用者の居室入り口に、防災頭巾が用意されている。備蓄は3日分施設内の倉庫に用意して、ローリングストックしている。緊急連絡網の訓練も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護や接遇、不適切ケアなどの内外研修への参加を通じ職員教育を行っている。不適切でないかスタッフ同士注意し合っていくよう努めている。	呼称は、基本は苗字にさん付けだが、反応を見て下の名前にさん付けで呼んでいる。去年から、外部のネット教材を使って、接遇研修を行っていて、家でも受講できるようにしている。排泄の失敗時には、さりげなく声掛けをして、誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、利用者自身の思いや決定を優先できるように心掛けています。普段の会話などからも希望や思いが引き出せるよう傾聴し、自己決定が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、居室りやソファで休んだり、テレビや新聞、他利用者様と会話をするなど、自由に過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には自身で服装を選んでもらい、髪の毛のセットなどを要望を聞きながら支援している。イベントなどの行事時にはお化粧をしたりとおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方から頂いた季節の旬な物の下ごしらえや、テーブル拭きなど可能な範囲で一緒に行っている。	3食ケータリングで、月1、2回の手作りおやつや、行事食も季節に合わせて提供している。おはぎやホットケーキなど利用者と共に手作りし、喜んでいる。地域住民からの白菜や、柿などの旬の野菜や果物を頂くことが多く、季節を感じる食卓となっている。朝のお汁に頂いた白菜。以外に利用者の食の楽しみとなった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取状況はチェック表を記入している。個々の食事形態に合わせて提供し、食べやすい食器選びなど工夫し必要な栄養が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、個別の口腔ケア方法を実施し、口腔内のトラブルがある場合は歯科往診にてデンタルチェックと口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄方法と、場所や時間、介助方法を職員間で話し合い共有している。、できるだけオムツを使用せず、トイレでの排泄が維持出来るよう支援しています。	自発的にトイレに行く利用者が半数いる。利用者には排泄チェックシートの活用をして声掛けをしている。トイレを嫌がる方は今はいないが、言葉がけに注意して誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、水分補給や身体を動かすことを勧め便秘予防に努めている。状況により医師の指示を受け、薬でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制であり、声掛けをし、その日に入浴をしないや順番等の希望に沿えるようにしている。湯の温度や入浴にかかる時間を一人ひとりの好みに合わせ、ゆっくりと入浴を楽しんで頂いている。	入浴は週2回。浴槽に入れる方は現在は少ないが、シャワー浴や清拭で対応している。同性介助にも対応している。入浴を嫌がる方には無理強いはないが、時間などを工夫をして対応している。ゆず湯、入浴剤などを入れて、楽しんで入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んで頂いている。日中は活動する時間を作り、夜間の安眠に繋げている。気持ちよく休めるように温度や寝具の調整を行い、馴染みの物を置いて寛げる空間作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を綴じており、薬の効能や副作用、用法等をいつでも職員が確認出来るようにしている。また服薬内容が変更になった場合は連絡ノート等に記載している。服薬時は日付、名前の確認、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や嗜好を把握し、生活の中で役割を見つけ、本人の負担にならないよう、能力にあった作業や趣味活動を支援し気分転換などに繋がるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの感染状況を見極めながらであるが、主治医とも相談し、可能な限り本人の希望に沿えるよう御家族との調整を行い自宅への一時帰宅や外出を支援している。	桜やアジサイの花見、自宅付近へのドライブ、孫の成人式の際の写真撮影など、できる限り希望に応じている。夏祭りに法被を着て踊りを楽しんだり、七夕には短冊を飾り、ウナギを食したりするなど、旬を楽しめるよう外出に代わるレクリエーション活動を行っている。	レクリエーション活動の内容の更なる更新を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常的に金銭管理をすることが難しいので、欲しいものがある時には御家族よりお預かりしたお金で代行しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアに電話があり希望に沿って電話を掛けれる環境を作っている。自分で掛けることが出来ない利用者は職員が代行して掛けるなどして、御家族や知人との繋がりが継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や時期に合わせた飾り物を入居者と作成したり、季節の花をフロアに活けるなどし季節感を感じて頂けるように努めている。	リハビリ体操、しりとりなどをして、利用者は過ごしている。窓辺のソファは、利用者が洗濯物を置く場所となっている。体操時に、職員は利用者優しく声掛けをし、やる気を起こす工夫をしていた。壁面には、利用者が昔、家で作った作品や、職員と一緒に作った作品が飾られている。帰宅した際の思い出の写真を貼った箱を置いてあり、利用者の気持ちの支えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に数ヶ所ソファを設置し、自由に過ごせるよう工夫したり、仲の良い方が自由に行き来できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や物を持参したり、写真を飾ったり、居室のレイアウトを工夫し居心地よく過ごしていただけるように努めている。	備え付けは電動ベッド、カーテン、照明、クローゼット。居室は広く、毎日清掃され整っている。家族の写真や、職員からの敬老会や、誕生日の際のメッセージカードが飾られている。観葉植物を何点か育てたり、テレビを見て寛ぐ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じ家具の配置など環境整備を行ったり、歩行器や車椅子の使用や手すりの設置など安全に暮らせ、自立した生活ができるよう考慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない